

## 6 病院事業特別会計

### (1) 業務実績(審査資料 94～97、108頁参照)

入院部門の病床数は306床(一般病床275床、結核病床25床、感染症病床6床)であり、前年度と同じである。外来部門の開院日数は、前年度より3日延長の243日となっている。

年間延患者数は15万6,243人で、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、前年度に比べ26,549人(14.5%)減少している。

この内訳は、外来患者数が8万5,713人で前年度に比べ15,477人(15.3%)、入院患者数も7万530人で前年度に比べ11,072人(13.6%)それぞれ減少している。また、一日当たりの平均患者数は、外来が352.7人と前年度に比べ68.9人(16.3%)、入院も193.2人と前年度に比べ29.8人(13.4%)それぞれ減少している。この患者数の動向を診療科別にみると、外来では全ての診療科で減少し、入院では主に脳神経外科で増加し、内科で減少している。

一般病床利用率は70.5%で、前年度より10.0ポイント低下しており、平均在院日数は14.6日で、前年度より1.0日短縮している。

建設改良事業では、冷温水発生機や血液検査機器を更新し、施設環境の向上と医療の質の確保を図っている。また、新型コロナウイルスの感染対策として、国の補正予算に呼応し、救急外来診察室の拡張、PCR検査機器やCT(コンピューター断層診断装置)などの医療機器の追加配備により医療提供体制の強化を図るとともに、看護師等が感染患者と直接対面せずに生体情報のモニタリングができるよう各病棟に無線LANを配備するなど、入院環境の改善を図っている。

### (2) 経営成績

#### ア 収益(審査資料 97～98、100頁参照)

経常収益は66億2,433万4千円で、前年度に比べ12億5,510万4千円(23.4%)増加している。

このうち、収入の根幹である入院収益は29億9,076万4千円、外来収益は10億4,008万1千円で、前年度と比べると、入院収益は一般病床の一部休床及び患者数の減少により2億7,182万3千円(8.3%)、外来収益は患者数の減少により1億4,180万6千円(12.0%)それぞれ減少している。

なお、患者一人一日当たりの医業収益は、外来では12,134円と前年度に比べ454円(3.9%)、入院では42,404円と前年度に比べ2,422円(6.1%)、それぞれ増加している。

#### イ 費用(審査資料 97～99頁参照)

経常費用は54億8,185万6千円で、前年度に比べ6,765万円(1.2%)減少している。

この主な内訳を前年度と比べると、医業費用では、患者数の減少に伴い薬品費などの材料費が5,827万2千円(7.5%)、医療機器の賃借料などの経費が4,509万7千円(4.4%)それぞれ減少する一方、コロナ感染症患者対応による看護師等の増員や特別勤務手当の支給などにより給与費が2,001万7千円(0.6%)増加している。また、医業外費用では、雑損失が553万2千円(3.6%)、長期前払消費税償却が214万4千円(11.8%)それぞれ増加している。

#### ウ 損益(審査資料 97、99頁参照)

経常収支では、国からはコロナ病床確保の支援金等が、県からはコロナ患者の受入れ

協力金が合わせて17億4,419万6千円交付されたことで、経常利益、当年度純利益ともに11億4,247万8千円となった。前年度は経常損失が1億8,027万6千円だったことから、収支は13億2,275万4千円改善している。この結果、当年度未処理欠損金は、19億8,396万8千円まで減少している。

#### エ 収益性の分析(審査資料 100頁参照)

医業活動の収益性を表す医業収益対医業費用比率は82.8%(前年度比7.0ポイント減)と理想比率(100%以上)を下回っているものの、医業外収益の一般会計補助金等や医業外費用の企業債利息等を含めた総収益対総費用比率は120.8%(同比23.8ポイント増)と理想比率(100%以上)を上回っている。

### (3) 財政状態

#### ア 資産、負債及び資本

##### (ア) 資産(審査資料 101～103頁参照)

資産は107億668万3千円で、前年度に比べ13億3,410万2千円(14.2%)増加している。

この内訳を前年度と比べると、医療情報システム等の減価償却により固定資産が9,002万4千円(1.7%)減少し、現金・預金等の流動資産が14億2,412万6千円(36.3%)増加している。

##### (イ) 負債及び資本(審査資料 101、103～104頁参照)

負債は51億3,153万1千円で、前年度に比べ1億5,317万9千円(3.1%)増加している。

この内訳を前年度と比べると、固定負債(前年度比3,945万2千円、1.1%増)では、退職給付引当金が1億1,047万6千円(6.3%)増加し、償還期間が1年を超える企業債が7,102万4千円(4.1%)減少している。

流動負債(同比3,552万9千円、3.5%増)では、未払金が7,342万9千円(19.7%)、引当金が1,804万3千円(7.9%)それぞれ増加し、償還期間が1年以内の企業債が6,275万4千円(17.3%)減少している。

また、繰延収益(同比7,819万8千円、15.4%増)では、長期前受金が7,819万8千円(15.4%)増加している。

資本は55億7,515万2千円と前年度に比べ11億8,092万3千円(26.9%)増加している。

この内訳を前年度と比べると、資本金は一般会計出資金を組み入れたことにより3,844万5千円(0.6%)増加し、一方欠損金は、当年度純利益の補てんにより11億4,247万8千円(36.5%)減少している。

#### イ 企業債(審査資料 104頁参照)

市立病院R-01冷温水発生機等更新工事等に充てるため、2億2,830万円の新規借入れを行う一方で、元金3億6,207万8千円(同比△575万5千円、1.6%減)を償還した。その結果、本年度末の企業債残高は19億4,512万1千円と前年度より1億3,377万8千円(6.4%)減少している。

なお、この企業債残高の将来にわたる償還について、一般会計からの繰入れが見込まれる額(地方公共団体財政健全化法施行規則第9条に定める将来負担比率の算定に用いる数値)は12億2,737万1千円となっている。

ウ 財政状態に関する経営指標(審査資料 105頁参照)

流動比率(流動負債に対する流動資産の割合)は、512.2%(同比123.2ポイント増)と理想比率(100%以上)を上回っている。

なお、地方公共団体財政健全化法施行令第16条に定める資金不足比率の算定に用いる資金の不足額は、流動負債(企業債等を除く)の額が流動資産の額を下回っているため生じていない。

(4) キャッシュ・フローの状況(審査資料 106頁参照)

事業活動に伴う資金の増加又は減少を、業務活動、投資活動及び財務活動に区分して経営の実態をみると、業務活動では医業収入額が経費の支払額を上回り11億5,045万円の資金を生み出している。一方、建設改良費支払等の投資活動では2,367万1千円を費消し、企業債の償還などの財務活動でも9,533万3千円の資金費消となっている。

この結果、本年度末の資金残高は42億6,989万4千円となり、前年度に比べ10億3,144万6千円(31.9%)増加している。

(5) 一般会計からの繰入状況(審査資料 107頁参照)

一般会計からの繰入金は補助金、負担金及び出資金であり、繰入額は7億1,326万円と前年度に比べ3,676万7千円(4.9%)減少している。この内訳は、収益的収入に係る繰入金が4億9,926万3千円(前年度比△2,545万1千円、4.9%減)、資本的収入に係る繰入金が2億1,399万7千円(同比△1,131万6千円、5.0%減)となっている。

収益的収入に係る繰入金では、感染症病棟運営収支不足分が3,698万5千円(皆減)減少し、集団検診等保健衛生行政経費が932万円(26.0%)増加している。また、資本的収入に係る繰入金では、医療機器購入費に係る企業債元金償還費が1,087万3千円(5.8%)減少している。

(6) むすび(審査意見)

市立病院は、急性期病院として重要な役割を果たしているほか、感染症医療や腎透析による更生医療に加え、いわゆる人間ドックによる予防医療を実施している。

業務実績をみると、年間延患者数は15万6,243人で、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、前年度に比べ外来・入院とも大きく減少している。

建設改良事業では、冷温水発生機や血液検査機器を更新し、施設環境の向上と質の高い医療の提供に努めている。

収支状況については、コロナ禍での患者減少などにより医業収益が減少したものの、国や県からの補助金等の医業外収益が増加したことから増収となった。加えて、費用では、患者数の減少に伴い薬品費などの材料費が減少したため、平成27年度以来の経常利益となった。この結果、総収支では11億4千万円余の純利益となっている。なお、当年度末処理欠損金は19億8千万円余に減少している。

キャッシュ・フローの状況は、事業資金の発生源である業務活動では資金を確保しており、投資活動では医療設備更新など必要な投資を続けながら、財務活動では建設投資の資金を企業債の借入で補っている。

病院事業においては、患者数の減少や診療報酬の改定など、経営を取り巻く環境が年々厳しさを増す中で、コロナ禍による一般病床の一部休床や受診抑制による更なる患者数の減少など経営環境はより一層厳しい状況になっている。

公立病院の責務として、市立病院は、民間病院では対応の難しい災害医療や感染症医療、結核医療などの不採算部門を担っており、コロナ対策の基幹病院として、限られた人員の中、感染患者を積極的に受け入れてきたことは大いに評価できる。その一方で、病院経営の視点から健全経営に努めることも大変重要である。

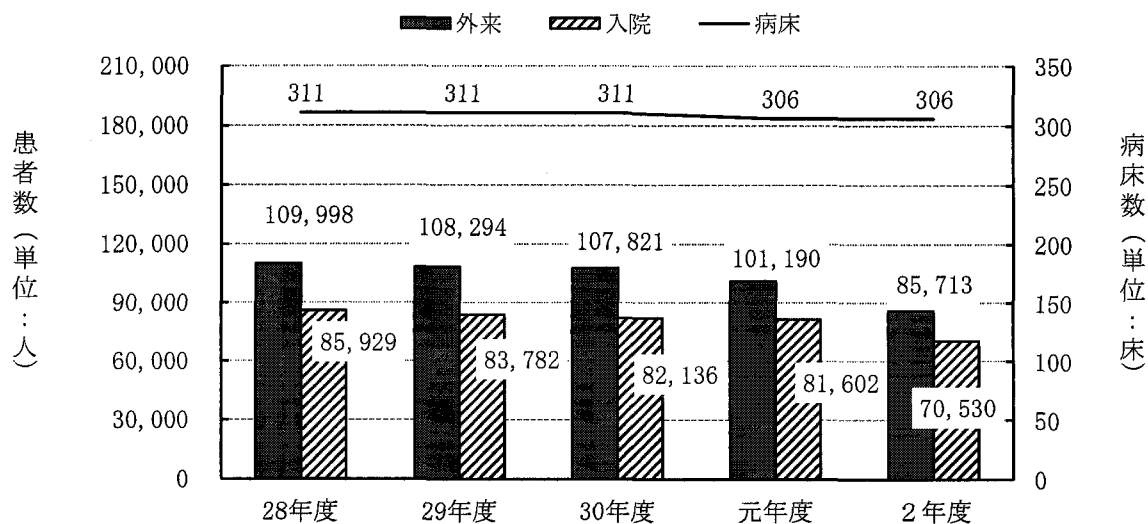
本年度は、感染患者の受入れや専用病床の確保、医療提供体制の整備に関し戦略的に取り組んだため、国や県から多額の補助金等収入があり、黒字決算となったが、これがなければ依然として経営は厳しい状況である。コロナ収束後を見据え、詳細な経営分析を行うとともに、周辺病院との機能分化や機能連携を検討するなど、累積赤字の削減に向けて、経営の健全化が図られるよう引き続き努められたい。

また、次期の「中期経営計画」策定に当たっては、今後予定される「新公立病院改革ガイドライン」や「地域医療構想」の見直しを踏まえて、市民に信頼される質の高い病院となるよう公立病院としての役割を明確にし、経営効率の改善に向けた計画になることを期待する。

(審査資料)

1 業 務 状 況

(1) 患者数等の推移



ア 病床数

306床(一般病床275床、結核病床25床、感染症病床6床)であり、前年度と比べ増減はない。

イ 年間延患者数

前年度と比べると、患者延数で26,549人(14.5%)減少している。その内訳は、外来が15,477人(15.3%)、入院が11,072人(13.6%)それぞれ減少している。

ウ 一日当たりの平均患者数

外来患者が352.7人、入院患者が193.2人となっており、前年度と比べると、外来が68.9人(16.3%)、入院が29.8人(13.4%)それぞれ減少している。

(2) 診療科目別患者数の推移

【外来患者】

(単位：人)

区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
内 科	52,234	52,070	51,893	51,751	45,317
整 形 外 科	12,638	12,543	11,482	11,217	8,033
眼 科	8,614	8,447	8,487	7,917	7,377
泌 尿 器 科	7,613	7,237	7,409	7,244	6,570
脳神経外科	5,373	4,893	4,628	4,267	3,792
そ の 他	23,526	23,104	23,922	18,794	14,624
総 患 者 数	109,998	108,294	107,821	101,190	85,713

※その他は耳鼻咽喉科、外科、産婦人科、皮膚科、小児科、麻酔科である

【入院患者】

(単位：人)

区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
内 科	56,087	54,460	54,804	54,766	48,423
整 形 外 科	13,102	13,334	10,923	12,675	9,102
脳神経外科	6,877	6,167	5,826	5,938	6,652
外 科	4,197	4,376	5,309	4,407	3,129
泌 尿 器 科	1,432	1,344	1,544	1,681	1,171
そ の 他	4,234	4,101	3,730	2,135	2,053
総 患 者 数	85,929	83,782	82,136	81,602	70,530

※その他は眼科、産婦人科、耳鼻咽喉科、小児科、皮膚科、麻酔科である

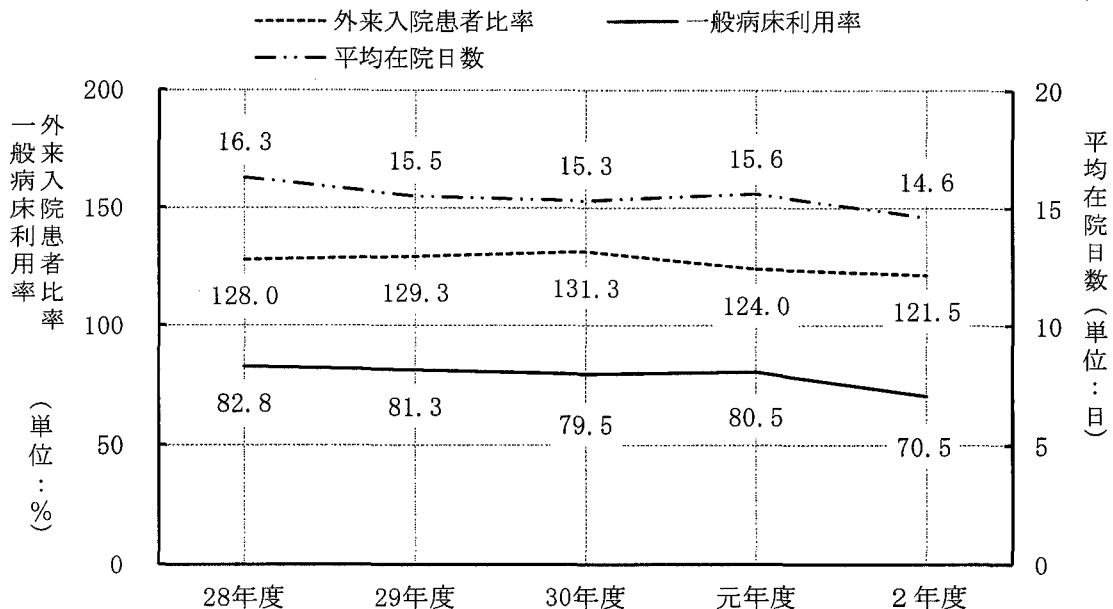
ア 外来患者

診療科目別の患者数を前年度と比べると、全ての診療科で減少している。

イ 入院患者

診療科目別の患者数を前年度と比べると、主に脳神経外科で増加し、内科で減少している。

(3) 一般病床利用率等の推移



$$(注) 1 \quad \text{一般病床利用率} = \frac{\text{一般病床入院患者数}}{\text{一般病床数(ドック除く)} \times 365日(※)} \times 100$$

(※) 閏日のある年度は366日、それ以外は365日

$$2 \quad \text{外来入院患者比率} = \frac{\text{外来患者数}}{\text{入院患者数}} \times 100$$

3 平均在院日数は、一般病床における入院患者の平均在院日数である。

$$\text{平均在院日数} = \frac{\text{延べ在院患者数}}{1/2 \times (\text{新入院患者数} + \text{退院患者数})}$$

4 近隣の自治体病院の令和元年度一般病床利用率平均は、79.8%である。

(7 資料(2)近隣病院比較表参照)

ア 一般病床利用率

前年度と比べると、10.0ポイント低下している。

イ 外来入院患者比率

前年度と比べると、2.5ポイント低下している。

ウ 平均在院日数

前年度と比べると、1.0日短縮している。

(4) 新規の外来・入院実患者数の推移

区 分	単位	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
新規外来患者	人	8,088	7,561	7,311	6,809	5,559
新規入院患者	人	4,276	4,266	4,339	4,363	3,879

前年度と比べると、新規外来患者数は1,250人(18.4%)、新規入院患者数は484人(11.1%)それぞれ減少している。

2 予算執行状況

(1) 収益的収入及び支出

(単位：千円・%)

科 目	予算額	決算額	翌年度繰越額	決算額の予算額 に対する増減 又は不用額	執行率
事業収益	6,680,263	6,639,292	-	△ 40,971	99.4
医業収益	4,434,563	4,380,315	-	△ 54,248	98.8
医業外収益	2,245,700	2,258,977	-	13,277	100.6
事業費用	5,623,591	5,494,587	-	129,004	97.7
医業費用	5,551,114	5,432,610	-	118,504	97.9
医業外費用	72,477	61,977	-	10,500	85.5

(注) 予算額及び決算額には、消費税及び地方消費税を含む。

ア 収益的収入(事業収益)

決算額の予算額に対する減少は、主に次の項目の減少による。

入院収益	△ 2,323万6千円
長期前受金戻入	△ 2,236万8千円

イ 収益的支出(事業費用)

不用額は、主に次の項目の金額である。

材料費(薬品費等)	5,047万7千円
給与費(給料等)	3,391万1千円
経費(賃借料等)	1,486万5千円
研究研修費	696万5千円

(2) 資本的収入及び支出

(単位：千円・%)

科 目	予算額	決算額	翌年度繰越額	決算額の予算額 に対する増減 又は不用額	執行率
資本的収入(A)	535,697	523,613	-	△ 12,084	97.7
企業債	260,600	228,300	-	△ 32,300	87.6
他会計補助金	175,552	175,552	-	0	100.0
他会計出資金	38,445	38,445	-	0	100.0
県補助金	61,100	81,316	-	20,216	133.1
資本的支出(B)	685,679	673,385	-	12,294	98.2
建設改良費	323,600	311,307	-	12,293	96.2
企業債償還金	362,079	362,078	-	1	100.0
差引(A)-(B)	△ 149,982	△ 149,772	-	-	-

(注) 1 予算額及び決算額には、消費税及び地方消費税を含む。

2 県補助金の決算額 8,131万6千円は、国からの新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金である。

ア 資本的収入

決算額の予算額に対する減少は、次の項目の増減による。

企業債	△ 3,230万円
県補助金	2,021万6千円

イ 資本的支出

(ア) 主な建設改良事業は、次のとおりである。

医療機器整備事業 (臨床検査システム用機器等)	2億2,380万円
----------------------------	-----------

(イ) 不用額は、主に建設改良費における工事請負費574万円である。

ウ 収入不足額の補てん

資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額1億4,977万2千円は、次の項目の金額で補てんされている。

過年度分損益勘定留保資金	1億4,944万3千円
当年度分消費税等資本的収支調整額	32万9千円

### 3 経 営 成 績

(1) 経営成績

(単位：千円・%)

科 目	2 年 度	元 年 度	増 減	
			金 額	比 率
経 常 収 益	6,624,334	5,369,230	1,255,104	23.4
医 業 収 益	4,367,464	4,802,623	△ 435,159	△ 9.1
医 業 外 収 益	2,256,870	566,607	1,690,263	298.3
経 常 費 用	5,481,856	5,549,506	△ 67,650	△ 1.2
医 業 費 用	5,271,884	5,346,786	△ 74,902	△ 1.4
医 業 外 費 用	209,972	202,720	7,252	3.6
経 常 利 益	1,142,478	△ 180,276	1,322,754	-
特 別 利 益	-	14,594	△ 14,594	△ 100.0
当 年 度 純 利 益	1,142,478	△ 165,682	1,308,160	-

(注) 2年度の医業外収益には、国の新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金 14億719万6千円及び  
県の新型コロナウイルス感染症患者受入医療機関協力金 3億3,700万円、合計17億4,419万6千円を含む。

ア 収 益

(ア) 医業収益の減少は、主に次の項目の減少による。

入院収益	△ 2億7,182万3千円(△ 8.3%)
外来収益	△ 1億4,180万6千円(△ 12.0%)

(イ) 医業外収益の増加は、主に補助金14億467万9千円(23,663.7%)の増加である。



(ウ) 総収益の推移は、次のとおりである。

(単位：千円)

区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
入院収益	3,298,988	3,333,212	3,237,346	3,262,587	2,990,764
外来収益	1,253,693	1,281,925	1,244,208	1,181,887	1,040,081
一般会計補助金	258,973	255,912	313,954	323,793	292,023
長期前受金戻入	152,652	182,516	204,644	195,640	177,924
その他収入	402,997	421,389	430,033	405,323	2,123,542
特別利益	4,515	17,279	2,679	14,594	0
総 収 益	5,371,818	5,492,233	5,432,864	5,383,824	6,624,334

(注) 1 診療報酬の改定状況

平成28年4月 診療報酬本体 0.49%、薬価・材料 △1.33%

平成30年4月 診療報酬本体 0.55%、薬価・材料 △1.74%

令和2年4月 診療報酬本体 0.55%、薬価・材料 △1.01%

2 特別利益は、企業債の元金償還金繰入額の過年度分を収益化したことによる、その他特別利益である。

## イ 費 用

(ア) 医業費用の減少は、主に次の項目の増減による。

材料費(薬品費等)	△ 5,827万2千円(△ 7.5%)
経費(賃借料等)	△ 4,509万7千円(△ 4.4%)
給与費	2,001万7千円( 0.6%)

なお、医業費用における材料費の推移は、次のとおりである。

(単位：千円・%)

区 分	2年度	元年度	増 減	
			金 額	比 率
薬 品 費	396,935	443,276	△ 46,341	△ 10.5
治療用薬品	311,165	352,714	△ 41,549	△ 11.8
検査用薬品	65,062	61,986	3,076	5.0
その他の薬品	20,708	28,576	△ 7,868	△ 27.5
診療材料費	311,777	324,159	△ 12,382	△ 3.8
給食材料費	6,880	7,200	△ 320	△ 4.4
医療消耗備品費	3,457	2,686	771	28.7
合 計	719,049	777,321	△ 58,272	△ 7.5

(イ) 医業外費用の増加は、主に次の項目の増加による。

雑損失	553万2千円( 3.6%)
長期前払消費税償却	214万4千円( 11.8%)

(ウ) 総費用の性質別経費の推移は、次のとおりである。

(単位：千円)

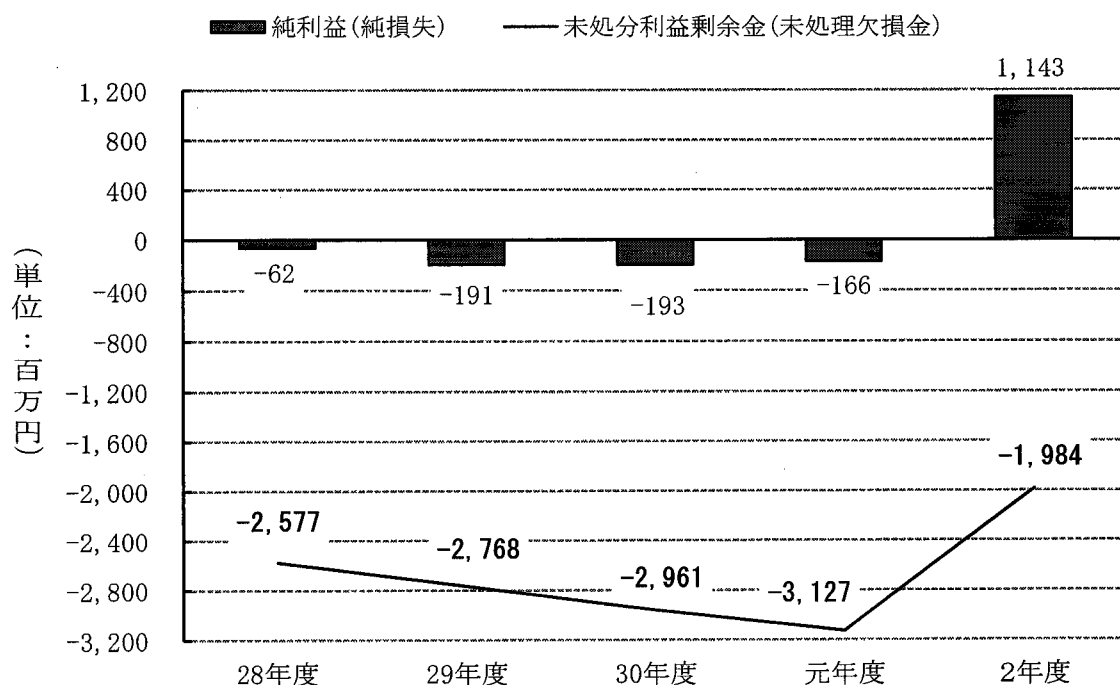
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
人 件 費 (退職給付費除く)	3,080,830 (2,961,808)	3,199,350 (3,062,995)	3,227,748 (3,049,504)	3,167,613 (2,998,333)	3,187,630 (3,029,549)
経 費	959,422	1,007,198	1,013,679	1,013,726	968,629
材 料 費	845,133	924,943	817,335	777,321	719,049
減 価 償 却 費	330,026	327,294	357,248	363,577	377,913
支 払 利 息 等	29,047	23,438	18,191	13,630	12,584
長期前払消費税償却	16,144	16,140	17,981	18,232	20,376
そ の 他 費 用	172,897	184,570	173,829	195,407	195,675
総 費 用	5,433,499	5,682,933	5,626,011	5,549,506	5,481,856
(参考)院外処方箋 発行率(%)	96.9	97.3	97.3	97.2	97.7

## ウ 損 益

(ア) 経常利益の発生は、補助金等の経常収益が増加したことに加え、材料費等の経常費用が減少したことによる。

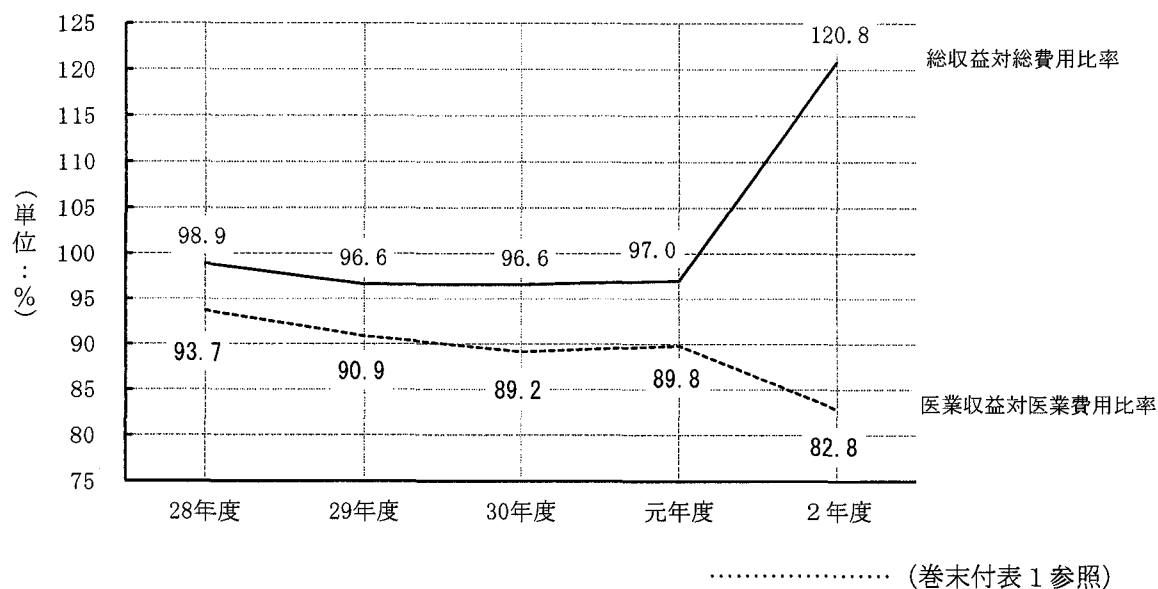
(イ) 当年度純利益は、11億4,247万8千円である。

(ウ) 当年度純利益(純損失)及び当年度未処分利益剰余金(未処理欠損金)の推移は、次のとおりである。



(注) 2年度は、新型コロナウイルス感染症に伴う国・県からの補助金等により純利益となっている。

## (2) 収益率の推移



- (注) 1 総収益対総費用比率は、100%以上大きいほど良好である。  
 2 医業収益対医業費用比率は、100%以上大きいほど良好である。

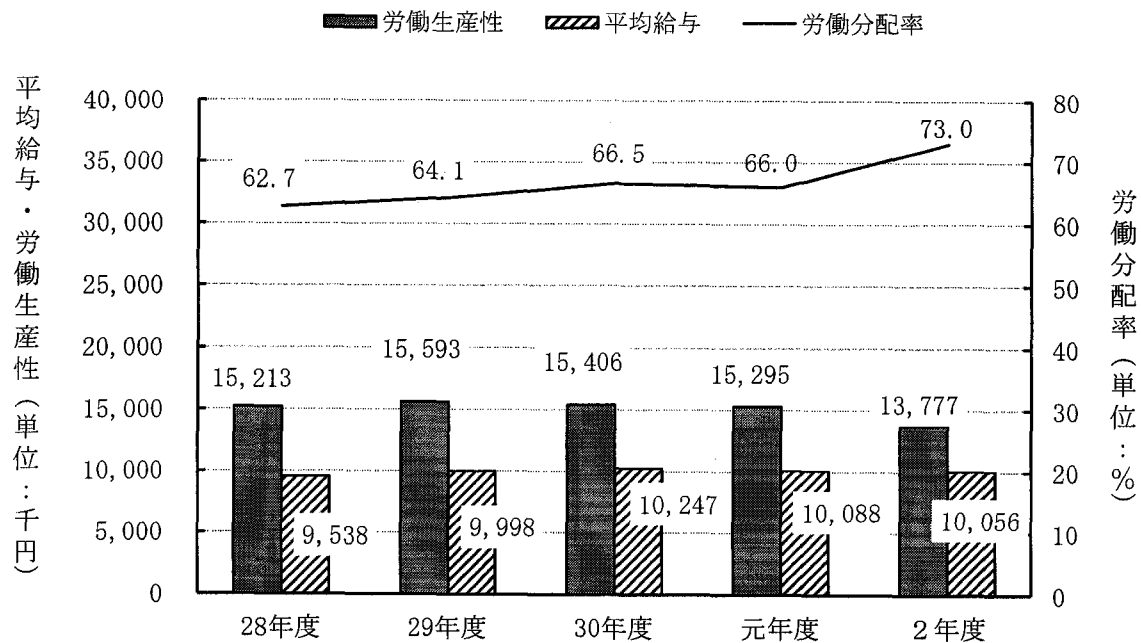
## (3) 患者一人一日当たり医業収支の推移

(単位：円)

区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	備 考
医 業 収 益	25,079	25,979	25,547	26,274	27,953	$\frac{\text{医 業 収 益}}{\text{年間外来・入院患者数}}$
外 来 収 益	11,397	11,837	11,540	11,680	12,134	$\frac{\text{外来収益}}{\text{年間外来患者数}}$
入 院 収 益	38,392	39,784	39,414	39,982	42,404	$\frac{\text{入院収益}}{\text{年間入院患者数}}$
医 業 費 用	26,765	28,586	28,652	29,251	33,742	$\frac{\text{医 業 費 用}}{\text{年間外来・入院患者数}}$
医 業 損 失	1,686	2,607	3,105	2,977	5,789	(患者一人一日当たり) 医業収益－医業費用

ア 患者一人一日当たりの医業収支を前年度と比べると、医業収益が1,679円増加したものの、医業費用が4,491円増加したことにより、医業損失は2,812円増加している。

#### (4) 労働生産性の推移



(注) 1 労働生産性 =  $\frac{\text{医業収益}}{\text{損益勘定所属職員数}}$

2 平均給与 =  $\frac{\text{人件費}}{\text{損益勘定所属職員数}}$

3 労働分配率 =  $\frac{\text{人件費}}{\text{医業収益}} \times 100$

#### 4 財政状態

##### (1) 財政状態

(単位：千円・%)

科 目	2 年度	元年度	増 減	
			金 額	比 率
資 産	10,706,683	9,372,581	1,334,102	14.2
固 定 資 産	5,361,879	5,451,903	△ 90,024	△ 1.7
流 動 資 産	5,344,804	3,920,678	1,424,126	36.3
資 産 合 計	10,706,683	9,372,581	1,334,102	14.2
負 債	5,131,531	4,978,352	153,179	3.1
固 定 負 債	3,500,721	3,461,269	39,452	1.1
流 動 負 債	1,043,528	1,007,999	35,529	3.5
繰 延 収 益	587,282	509,084	78,198	15.4
資 本	5,575,152	4,394,229	1,180,923	26.9
資 本 金	6,994,965	6,956,520	38,445	0.6
剰 余 金	△ 1,419,813	△ 2,562,291	1,142,478	△ 44.6
負 債 資 本 合 計	10,706,683	9,372,581	1,334,102	14.2

## ア 資 産

(ア) 固定資産の減少は、主に次の項目の増減による。

その他無形固定資産	△	7,329万円	(△ 26.5%)
(医療情報システム等)			
建物	△	6,969万9千円	(△ 2.4%)
器械備品		5,723万2千円	( 9.5%)

なお、有形固定資産減価償却累計額は81億8,651万4千円であり、前年度と比べると2億4,339万5千円増加している。

(イ) 流動資産の増加は、主に次の項目の増加による。

現金・預金	10億3,144万6千円	( 31.9%)
未収金	3億8,989万9千円	( 55.1%)

なお、未収金の内訳は、次のとおりである。

(単位：千円・%)

科 目	2 年 度	元 年 度	増 減	
			金 額	比 率
入 院 収 益	469,389	507,852	△ 38,463	△ 7.6
外 来 収 益	160,336	162,137	△ 1,801	△ 1.1
そ の 他 収 益	467,331	37,168	430,163	1,157.3
未 収 金 合 計	1,097,056	707,157	389,899	55.1

- (注) 1 未収金は年度末の数値であり、消費税及び地方消費税を含む。  
2 未収金のうち、回収することが困難と見込まれる額については、貸倒引当金を別に計上する。

また、貸倒引当金の推移は、次のとおりである。

(単位：千円)

区 分	2 8 年 度	2 9 年 度	3 0 年 度	元 年 度	2 年 度
貸 倒 引 当 金	45,398	45,105	44,109	44,589	40,771

なお、不納欠損処分状況は、次のとおりである。

(単位：件・千円・%)

根 拠	区 分		2 年 度	元 年 度	増 減	
					件数・金額	比 率
地 方 自 治 法 第 2 3 6 条 第 1 項 ( 5 年 の 消 滅 時 効 )	入 院 収 益	件数	123	83	40	48.2
		金額	3,313	2,080	1,233	59.3
	外 来 収 益	件数	243	241	2	0.8
		金額	1,257	1,270	△ 13	△ 1.0
	その他 収 益	件数	173	159	14	8.8
		金額	461	424	37	8.7
民 法 第 1 7 0 条 第 1 号 ( 3 年 の 消 滅 時 効 )	入 院 収 益	件数	-	-	-	-
		金額	-	-	-	-
	外 来 収 益	件数	-	-	-	-
		金額	-	-	-	-
	その他 収 益	件数	-	2	△ 2	△ 100.0
		金額	-	37	△ 37	△ 100.0
破 産 法 第 3 0 条 (破産手続開始の決定)	入 院 収 益	件数	-	-	-	-
		金額	-	-	-	-
	外 来 収 益	件数	4	1	3	300.0
		金額	9	7	2	28.6
	その他 収 益	件数	1	1	0	0.0
		金額	12	1	11	1,100.0
合 計		件数	544	487	57	11.7
		金額	5,052	3,819	1,233	32.3

## イ 負 債

(ア) 固定負債の増加は、次の項目の増減による。

退職給付引当金 1億1,047万6千円( 6.3%)  
 企業債(償還期間が1年を超えるもの) △ 7,102万4千円(△ 4.1%)

なお、引当金の推移は、次のとおりである。

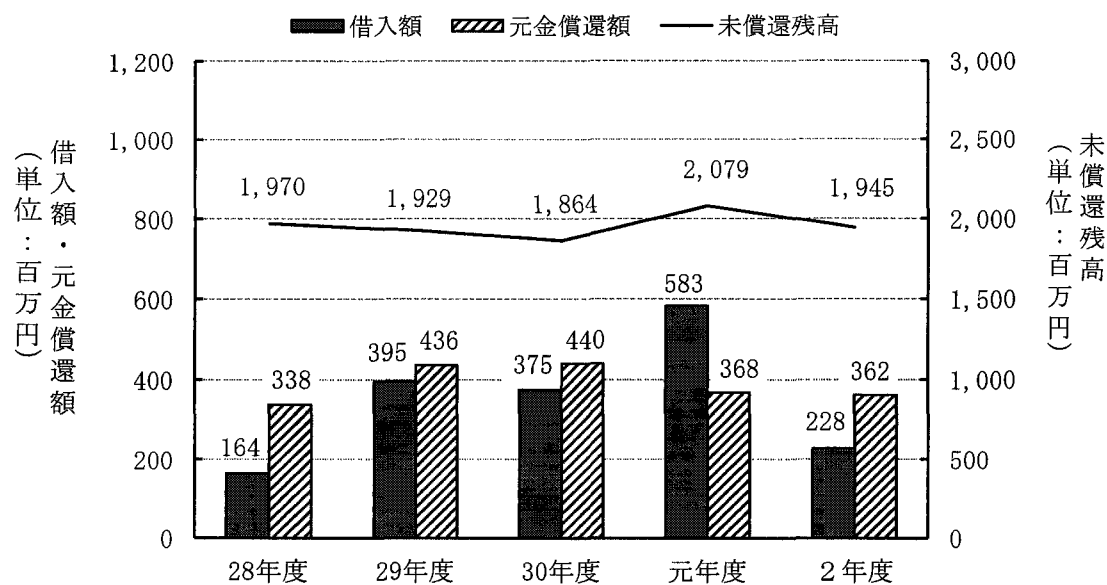
(単位：千円)

区 分	2 8 年度	2 9 年度	3 0 年度	元年度	2 年度
退職給付引当金	1,528,211	1,587,147	1,700,463	1,744,448	1,854,924

(イ) 流動負債の増加は、主に次の項目の増減による。

未払金 7,342万9千円( 19.7%)  
 引当金 1,804万3千円( 7.9%)  
 企業債(償還期間が1年以内のもの) △ 6,275万4千円(△ 17.3%)

(ウ) 企業債の状況は、次のとおりである。



なお、令和2年度に借り入れた企業債は、医療機器整備事業に充当するためである。

(エ) 繰延収益の増加は、長期前受金7,819万8千円(15.4%)の増加による。

## ウ 資 本

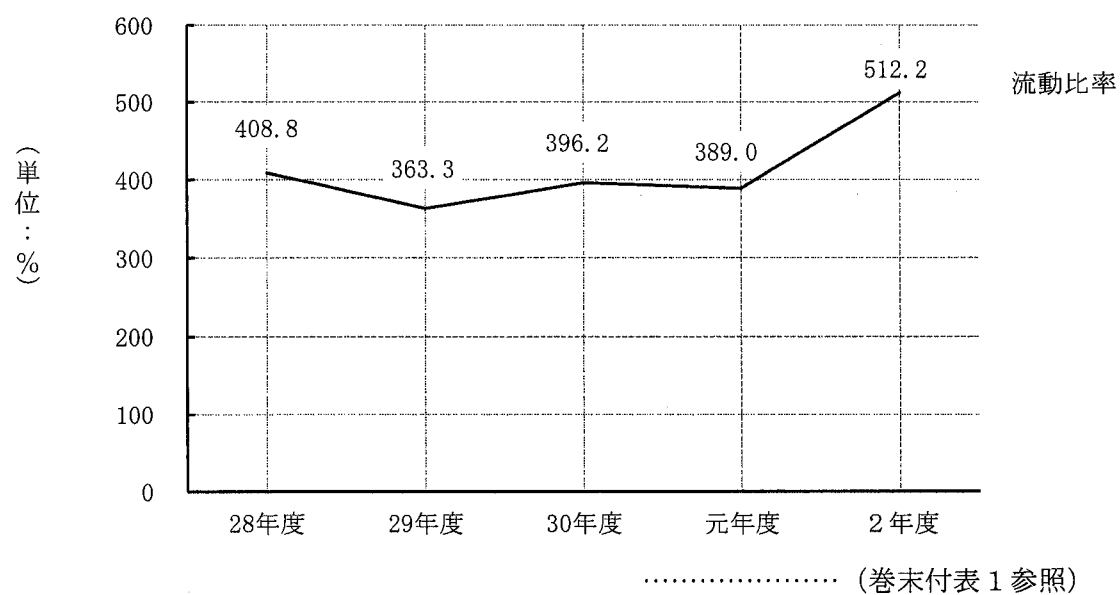
(ア) 資本金の増加は、一般会計出資金3,844万5千円の組入れによる。

(イ) 剰余金の増加は、欠損金11億4,247万8千円(44.6%)の減少による。

(ウ) 資本剰余金の増減はない。

(エ) 当年度未処理欠損金は、前年度繰越欠損金31億2,644万6千円を当年度純利益11億4,247万8千円で補てんした結果、19億8,396万8千円となっている。

## (2) 財務比率の推移



(注) 流動比率は、100%以上大きいほど良好である。



## 5 キャッシュ・フローの状況

(単位：千円)

項 目	2 年 度	元 年 度	増 減
<b>1. 業務活動によるキャッシュ・フロー</b>			
当年度純利益(△は純損失)	1,142,478	△ 165,682	1,308,160
減価償却費	377,913	363,577	14,336
固定資産除却損	1,967	4,505	△ 2,538
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△ 3,818	480	△ 4,298
退職給付引当金の増減額(△は減少)	110,476	43,985	66,491
賞与等引当金の増減額(△は減少)	18,043	9,135	8,908
長期前受金戻入額	△ 177,924	△ 210,237	32,313
受取利息及び受取配当金	△ 246	△ 302	56
支払利息	12,584	13,630	△ 1,046
未収金の増減額(△は増加)	△ 389,875	△ 540	△ 389,335
未払金の増減額(△は減少)	70,254	85,739	△ 15,485
未払費用の増減額(△は減少)	374	△ 2,576	2,950
たな卸資産の増減額(△は増加)	1,037	2,409	△ 1,372
長期前払消費税の増減額 (△は増加)	△ 6,851	△ 24,792	17,941
その他流動負債の増減額 (△は減少)	6,437	△ 10,588	17,025
<b>小計</b>	<b>1,162,849</b>	<b>108,743</b>	<b>1,054,106</b>
利息及び配当金の受取額	222	291	△ 69
利息の支払額	△ 12,621	△ 13,669	1,048
<b>業務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,150,450</b>	<b>95,365</b>	<b>1,055,085</b>
<b>2. 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>			
有形固定資産の取得による支出	△ 282,180	△ 617,005	334,825
無形固定資産の取得による支出	2,386	286	2,100
国庫補助金等による収入	81,316	-	81,316
一般会計又は他の特別会計からの繰入金による収入	174,807	186,425	△ 11,618
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 23,671</b>	<b>△ 430,294</b>	<b>406,623</b>
<b>3. 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>			
建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入	228,300	582,300	△ 354,000
建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△ 362,078	△ 367,833	5,755
他会計からの出資による収入	38,445	38,888	△ 443
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 95,333</b>	<b>253,355</b>	<b>△ 348,688</b>
<b>資 金 増 減 額 ( △ は 減 少 )</b>	<b>1,031,446</b>	<b>△ 81,574</b>	<b>1,113,020</b>
<b>資 金 期 首 残 高</b>	<b>3,238,448</b>	<b>3,320,022</b>	<b>△ 81,574</b>
<b>資 金 期 末 残 高</b>	<b>4,269,894</b>	<b>3,238,448</b>	<b>1,031,446</b>

## 6 一般会計からの繰入状況

(単位：千円・%)

区 分	2 年度	元年度	増 減	
			金 額	比 率
収益的収入に係る繰入金	499,263	524,714	△ 25,451	△ 4.9
医業収益	207,290	200,921	6,369	3.2
負担金	207,290	200,921	6,369	3.2
救急医療体制確保対策分	162,068	165,019	△ 2,951	△ 1.8
集団検診等保健衛生行政経費	45,222	35,902	9,320	26.0
医業外収益	291,973	323,793	△ 31,820	△ 9.8
補助金	291,973	323,793	△ 31,820	△ 9.8
結核病床運営不採算分	136,833	131,577	5,256	4.0
医師及び看護師等の研究研修経費(1/2)	6,532	9,981	△ 3,449	△ 34.6
企業債利息(1/2、2/3)	8,085	8,782	△ 697	△ 7.9
職員の基礎年金拠出金に係る公的負担経費	85,220	83,745	1,475	1.8
共済追加費用の負担経費	15,074	15,233	△ 159	△ 1.0
感染症病棟運営収支不足分(10/10、1/3)	-	36,985	△ 36,985	△ 100.0
リハビリテーション医療の経費	19,746	16,821	2,925	17.4
院内保育所運営経費	2,656	2,800	△ 144	△ 5.1
職員の児童手当に要する経費	12,756	12,703	53	0.4
高度医療機器購入による病院負担増分(1/2)	108	135	△ 27	△ 20.0
子育て支援に要する経費	41	34	7	20.6
小児医療に要する経費	4,922	4,997	△ 75	△ 1.5
資本的収入に係る繰入金	213,997	225,313	△ 11,316	△ 5.0
出資金	38,445	38,888	△ 443	△ 1.1
病院建設等企業債元金償還費 (感染症病棟分10/10、その他1/2、2/3)	38,445	38,888	△ 443	△ 1.1
補助金	175,552	186,425	△ 10,873	△ 5.8
医療機器購入費に係る企業債元金償還費 (高度医療機器分10/10、その他1/2)	175,552	186,425	△ 10,873	△ 5.8
合 計	713,260	750,027	△ 36,767	△ 4.9

7 資 料

(1) 業 務 実 績 表

項 目		単位	2 年 度	元 年 度	増 減
病 床 数		床	306	306	0
病 床	一 般 病 床	〃	275	275	0
	結 核 病 床	〃	25	25	0
	感 染 症 病 床	〃	6	6	0
患 者 数		人	156,243	182,792	△ 26,549
外 来 患 者	内 科	〃	45,317	51,751	△ 6,434
	外 科	〃	2,986	3,096	△ 110
	整 形 外 科	〃	8,033	11,217	△ 3,184
	脳 神 経 外 科	〃	3,792	4,267	△ 475
	眼 科	〃	7,377	7,917	△ 540
	小 児 科	〃	1,745	3,322	△ 1,577
	産 婦 人 科	〃	2,525	2,866	△ 341
	耳 鼻 い ん こ う 科	〃	3,580	4,591	△ 1,011
	皮 膚 科	〃	2,239	2,879	△ 640
	泌 尿 器 科	〃	6,570	7,244	△ 674
	麻 酔 科	〃	1,549	2,040	△ 491
	計 (A)	〃	85,713	101,190	△ 15,477
	一 日 平 均 患 者 数	〃	352.7	421.6	△ 68.9
入 院 患 者	内 科	〃	48,423	54,766	△ 6,343
	外 科	〃	3,129	4,407	△ 1,278
	整 形 外 科	〃	9,102	12,675	△ 3,573
	脳 神 経 外 科	〃	6,652	5,938	714
	眼 科	〃	758	801	△ 43
	小 児 科	〃	250	246	4
	産 婦 人 科	〃	712	878	△ 166
	耳 鼻 い ん こ う 科	〃	319	147	172
	皮 膚 科	〃	14	63	△ 49
	泌 尿 器 科	〃	1,171	1,681	△ 510
	麻 酔 科	〃	0	0	0
	計 (B)	〃	70,530	81,602	△ 11,072
	一 般 病 床 患 者 数	〃	68,709	78,690	△ 9,981
患 者	結 核 病 床 患 者 数	〃	1,821	2,859	△ 1,038
	感 染 症 病 床 患 者 数	〃	0	53	△ 53
	一 日 平 均 患 者 数	〃	193.2	223.0	△ 29.8
	一 般 病 床 一 日 平 均 患 者 数	〃	188.2	215.0	△ 26.8
	一般病床利用率(ドック8床除く)	%	70.5	80.5	△ 10.0
外 来 入 院 患 者 比 率 (A)/(B)		〃	121.5	124.0	△ 2.5
人 間 ド ッ ク 受 診 者 数		人	965	1,050	△ 85
職 員	( 医 療 職 )	医 師	〃 37 (9)	36 (3)	1 (6)
		医 療 技 術 職 員	〃 43 (6)	43 (8)	0 (△2)
		看 護 師	〃 213 (23)	209 (32)	4 (△9)
		助 産 師	〃 2	3	△ 1 (0)
		准 看 護 師	〃 0	0	0 (0)
数	主 事		〃 21 (18)	22 (18)	△ 1 (0)
	技 師		〃 1	1	0 (0)
	計		〃 317 (56)	314 (61)	3 (△5)

(注) 1 職員は、すべて損益勘定支弁職員である。

2 職員数の( )は、元年度は非常勤職員、2年度は常勤的会計年度任用職員で外書きである。

## (2) 近隣病院比較表

区 分			金 沢 市 市 立 病 院		近隣7病院 平 均	小 松 市 市 民 病 院	
			2 年 度	元年度	元年度		
全 病 床 数			床	306	306	429	340
う ち 一 般 病 床 数			床	275	275	378	300
業 務 概 況	一 般 病 床 利 用 率 (ドック8床除く利用率)	%	68.5 (70.5)	78.2 (80.5)	79.8	81.1	
	一 般 病 床 平 均 在 院 日 数	日	14.6	15.6	13.6	12.4	
	1 日平均患者数	外 来 人	352.7	422.0	868	747	
		入 院 人	193.2	223.0	318	249	
	外 来 入 院 患 者 比 率	%	121.5	124.0	180.0	198.7	
経 営 状 況	総 収 支 比 率	%	120.8	97.0	99.0	100.3	
	医 業 収 支 比 率	%	82.8	89.8	95.1	95.5	
	他会計繰入金対経常収益比率	%	7.5	9.8	7.2	4.8	
	外 来 患 者 1 人 1 日 当 た り 外 来 収 入	円	12,134	11,680	13,469	14,646	
	〔 上 記 の う ち 投 薬 料 を 除 い た 外 来 収 入 〕	円	(12,050)	(11,644)	(12,691)	(14,144)	
	入 院 患 者 1 人 1 日 当 た り 入 院 収 入	円	42,404	39,982	50,716	51,630	
	医業収益に対する	職 員 給 与 費	%	72.7	65.7	54.7	54.6
		診 療 材 料 費	%	16.3	16.1	22.4	25.9
当 年 度 未 処 分 利 益 剰 余 金	千円	△1,983,968	△3,126,446	△3,112,009	△2,361,267		
職 員	100 床 当 た り 職 員 数	人	115.6	115.1	154.6	157.1	
	職員1人当たり	医業収益	千円	13,777	15,295	14,074	14,861
		医業費用	千円	16,631	17,028	14,802	15,567

(注) 1 令和元年度の数値は、地方公営企業年鑑(H31.4.1～R2.3.31 総務省自治財政局編)  
2 なお、近隣病院の選定に当たっては、石川県及び富山県の300床以上の市立・公立

白山市 公立松任石川 中央病院	七尾市 公立能登 総合病院	富山市 市民病院	高岡市 市民病院	黒部市 市民病院	砺波市 砺波総合病院
305	434	595	401	414	514
275	330	539	333	405	461
92.5	81.5	71.2	80.5	80.4	71.4
12.7	15.8	13.9	13.1	12.2	14.8
734	870	1,019	803	835	1,070
277	316	407	296	326	358
174.0	181.3	164.1	177.7	168.5	195.9
96.5	101.6	97.5	100.1	98.5	98.8
93.1	94.2	93.7	95.1	98.9	94.9
5.7	7.2	8.2	10.6	5.4	8.8
14,897	11,416	11,374	10,841	18,841	12,267
(14,682)	(11,378)	(10,976)	(10,359)	(15,476)	(11,819)
54,221	43,637	53,818	51,333	50,504	49,870
47.1	64.7	59.4	53.2	48.6	55.0
20.0	16.7	22.8	21.7	26.8	23.1
1,495,482	404,276	△4,853,034	△11,159,485	△1,833,345	△3,476,692
181.1	142.7	152.1	124.9	169.5	155.1
15,998	12,658	11,939	12,182	15,063	15,820
17,177	13,431	12,737	12,804	15,226	16,669

に基づき作成した。  
病院を対象とした。